

令和4年度 北海道善行賞(優良ひとり親家庭)表彰



音更町ブルースカイ

田邊 千佐子

製材会社の事務兼作業員として働く私のパート収入は当時10万にも満たず、深夜のコンビニでバイトを始めました。強い覚悟で歩み出した母子4人での生活でしたが、工場での重労働とバイトと家事で2、3時間睡眠が当たり前となり精神的にも体力的にも限界寸前でした。「倒れてしまいたい...」「どうか倒れませんか...」葛藤と折りの様な毎日でした。時間の許す限り働いても生活は足りず、途方に暮れ過ぎて出た言葉が「田邊家、



頑張ることに疲れた時に訪れる十勝(上士幌町)の広大な景色に癒されて

氷河期に入ります」繰り返される氷河期宣言で貧しさも笑いになりました。3人の成長と共に活動範囲も広がり怒涛の送迎時代に突入すると、当時3台あった覆面の内2台に乗り打ちひしがれる私に「ママ凄いな、あと1台乗ったら全制覇じゃん!!」物事は考えようだと娘に教わりました。

世間や周りを見渡す余裕など全く無く、今を生きる事しか考えられなかった私が今回このような賞を受賞する事が出来たのも、声を掛け導いて下さった方々のお陰です。どん底と思える状況のお陰で、小さな幸せにも沢山気付きました。いつか、道に迷い過ぎ不安になった息子に「ここで皆んなで死ぬの?」

と言われた温泉旅行を、もう一度やり直したいです。

小樽市ひとり親と寡婦の会

目時 香

この度は、北海道善行賞という名誉ある賞をいただき深く感謝申し上げます。

息子が1歳半でひとり親となり、当時の私は専業主婦で若く、社会経験も乏しく就職に苦労しましたが、家族や保育園に支えてもらい、何とか生活できる基礎を作ることが出来ました。息子は元気に成長して、たくさんの大切な仲間や恩師に出会います。中学生になり反抗期もありましたが、担任の先生や仲間を支えられ無事に過ぎました。高校は夢を叶える為、地元を離れ下宿生活を送ることになりました。金銭面で大変でしたが息子の夢を応援したい一心で、奨学金や下宿先の行政の支援をいただき、息子の努力が実り、更なる夢に向かい希望の大学に進学しました。ここまで私たち親子が苦勞を乗り越えられたのは、たくさんの方々や支援のお陰です。この賞は私が受賞したというよりは、支えてく



支えてくれた3人の妹の家族と



れた方々に感謝の気持と合わせて贈りたいです。最後に、今まで自分が歩んだ「ひとり親」としての経験を、これから子育てを頑張る世代の方へ伝え、「ひとり親だって夢は叶えられる」とエールを送れる存在になりたいです。そして、たくさん支えていただいた恩返しが出来ればと思います。